



日本の
技
体験フェア
2019

にっぽんの わざ たいけん ふえあ

入場 参加 無料

2019年
11月9日(土) 11月10日(日)
12:00～16:00 10:00～16:00

沖縄県立武道館
奥武山公園内／沖縄県那覇市奥武山町 52

専用駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

私たちの大切な財産である文化財を未来に残していくために欠かせない伝統の技【文化財の保存技術】。全国各地の文化財を陰で支え続けてきた修理技術や材料・道具を製作する技が一堂に集まります。今に受け継がれてきたかけがえのない技の数々をこの機会にぜひご覧ください。

※沖縄都市モノレール：奥武山公園駅、壺川駅から徒歩5分
※臨時駐車場(波の上みそら公園)より往復シャトルバスを1時間に2～3便運行します。(武道館で駐車券を無料処理します。)

同時開催
組踊公演「護佐丸敵討」
& ワークショップ
11月9日(土) 16:00～17:30
沖縄県立武道館内ステージ
主催：沖縄県教育委員会

主催：文化庁
共催：沖縄県教育委員会、那覇市、那覇市教育委員会、全国文化財保存技術連合会／後援：沖縄タイムス社、琉球新報社、NHK 沖縄放送局

選定保存技術 文化庁では、「文化財の保存技術」のうち、保存の措置を講ずる必要があるものを「選定保存技術」として選定し、その技術の保持者や保存団体を認定して、技の保存・伝承を図っています。



1 (公財)文化財建造物保存技術協会

国宝や重要文化財建造物を保存修理・活用していくためには、専門的な知識と経験に裏打ちされた技術者による設計監理を欠くことができない

建造物 修理・木工

文化財建造物は、社寺、城郭、住宅、近代建築などあらゆる分野にわたっています。その構造も、木材、石造、煉瓦造、鉄筋コンクリートなど多種で、地域や工匠達の系統による差もあります。これらの建造物の保存修理には、高度な専門的知識が必要であり、大工等の技能者に対し実技を指導しうる能力を必要としています。



旧富岡製糸場 東置繭所

体験 摺拓本を写し取ってみよう!

継手仕口模型、組格子模型を組立てよう!

2 (一社)日本伝統建築技術保存会

文化財建造物の修復において、設計手法や施工技術を解明し、適正な施工をする「木工技術」

建造物 木工

日本の木造建築技術は、千数百年以上昔から連綿と受け継がれ、我が国の気候風土と融合、調和して発達を遂げてきた日本が世界に誇る技術のひとつです。日本の伝統的な木造建築技術を守り、次代に継承するためには熟練した「木工技能者」が必要です。



慈尊院(和歌山県九度山町)

体験 カンナを使って箸を作ってみよう・沖縄継手づくり

壁掛 体験 壁掛けづくり [木枠づくり体験]

壁掛

このマークのある団体を巡り体験を行うと素敵な壁掛けが製作できます。 ※お持ち帰りできます。

3 (一社)社寺建造物美術保存技術協会

あらゆる調査と地道な研究により、歴史的建造物の美を後世に伝える「装飾の技」

建造物 装飾

神社や寺院などの建物に施されている装飾には、漆を使った「漆塗り」、絵具を使った「彩色」などがあります。いずれも1400年以上の歴史ある日本の美を支える伝統技術です。伝統的な建物の装飾には、私たち日本人の先祖の営みと綿々と受け継がれている美意識を見ることができます。



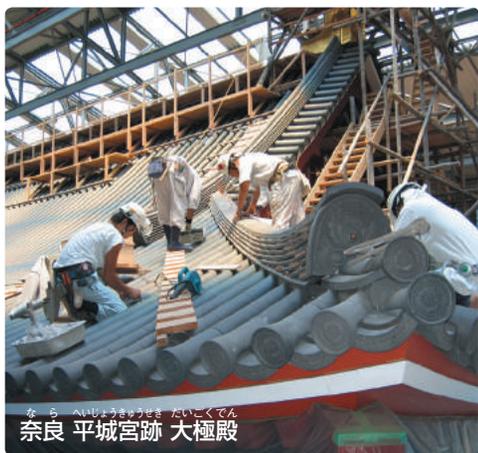
石清水八幡宮楼門(京都市八幡市)

壁掛 体験 壁掛けづくり [彩色体験]

4 (一社)日本伝統瓦技術保存会

優雅な屋根の曲線を伝統的な技法で葺き上げるための判断と技能が求められる「本瓦葺」

屋根瓦葺 (本瓦葺)



奈良 平城宮跡 大極殿

体験 瓦の型抜き体験してみよう!

奈良の法隆寺など日本の伝統的な建物の屋根には本瓦葺が多く使われています。本瓦葺は雨や風への対策を考えた上で、軒の反りや屋根の優美な曲線を伝統的な技術で葺き上げる大変高度な技術です。

5 文化財 畳保存会

文化財建造物の畳の高麗縁の隣合った模様を伸縮させながら縫い合わせる、高度な「畳製作の技術」

畳製作



畳を踏み比べてみよう!

畳は世界に類を見ない日本固有の文化です。文化財建造物にはさまざまな様式の伝統の畳が使用されてきました。畳床に畳表を張り、絹などの畳縁を縫い付けて仕上げます。また、装飾的な紋縁を使用した紋合わせと呼ばれる特殊な技法などを保存継承しています。

体験 畳パズルを体験してみよう!

各時代の文化的特徴を反映し、自然への深い
想いを持ってつくられた“庭園”

文化財庭園

保存技術

伝統的の日本庭園を未来に残すために、維持管理し、
修理・修復する技術です。石、水、そして植物が美
しく配されている庭園。そのうらにはさまざまな技
術が受け継がれています。



識名園(那覇市)



竹の手摺を作ってみよう!



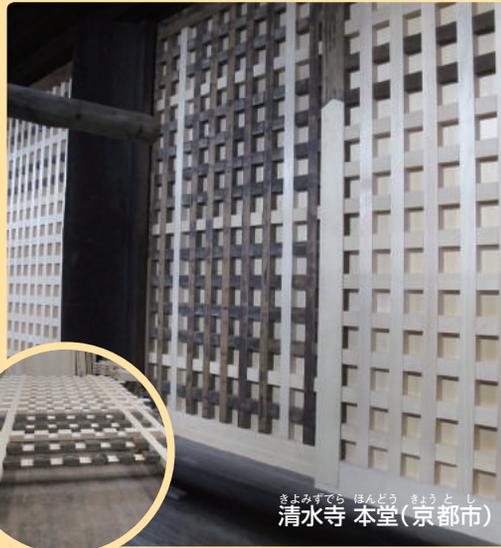
木材を組み合わせた細工を施す“組
子”は、建具のなかで突き抜けた美し
い技

建具製作

神社や寺院などの建具(戸
や窓など)を製作する技術
です。組子細工による
装飾など、繊細な美的表
現も必要とされます。



壁掛けづくり
[組子体験]



清水寺 本堂(京都市)



木製組子細工作り



古来から受け継がれてきた
“左官技法の漆喰”で仕上げられた、
世界文化遺産姫路城の白壁

左官(日本壁)

伝統的な左官技術には茶室などに用いられる古式京壁と、城郭に使われる漆喰壁があります。お城
の壁と言えば姫路城のような白垂の壁を思い浮かべますが、この壁が漆喰壁です。美しさと同時に
強靱さをもつ壁を作るには材料の吟味や調合方法、水引加減の見極めなど熟練の技術が必要です。



姫路城



壁掛けづくり [左官体験]



古来より連続と受け継がれてきた我が国固有の“屋根工法”

檜皮葺・柿葺・茅葺

檜皮採取 屋根板製作

檜皮葺: 檜の立木からむいた皮を薄く整形し、竹釘で打
ちとめながら葺き重ねていきます。それらは、世界遺産に
登録されている厳島神社など伝統的な古建築に残されて
います。大屋根が、檜皮の耐久年限とされる30~40年
の周期で葺き替えられ、建物を風雨から守っています。



厳島神社(広島県廿日市市)



檜皮葺の屋根を
葺いてみよう!



万葉の時代から受け継がれてきた茅の文化、草の力

茅採取

茅は茅葺き屋根をはじめ、簾や葎、蓑などに
使われ、最終的には肥料として豊かな実り
をもたらす、日本人の暮らしを支えてきた。
用途に応じて、茅の種類や質を選び、それ
を育てる茅場を野焼きなどで維持し、茅の持
続的な生産をはかってきました。その茅場は
生物多様性の宝庫でもあり、環境保全に大き
な役割を果たしてきたのです。



茅に触れてみよう



体験 (たいけん)

壁掛け作りラリー

せんごく じ だい じょうかく とともに 発達した 石垣の 修復
に 活かされる、 “石を 必要な 形に 割る 技法、 緊
密に 積み 重ねる 技術”

文化財石垣 保存技術



ひめじしやう かのうやぐらいしがき
姫路城 帝櫓石垣

ぶん か ざい に 指定されている 城
郭などの 石垣は、 日本 の 伝
統的 土木 構造物 として、 世
界に 誇る 代表的 な 文化 遺産
です。 解体、 修理 に あたっ
ては 研究者 や 専門家 と 連携
しながら 伝統的 な 技術 を 用い
て 進めます。

しゃじけんぞうぶつ あざ そうしよく せんじんたち
社寺建造物を鮮やかに装飾した先人達の
色彩を甦らせる “彩色” “漆塗”

建造物 彩色・漆塗



にっこうしやうくわう しょうめいもん
日光東照宮 陽明門

さんざる み い かんかざ
三猿(見ざる、言わざる、聞かざ
る)でも有名な日光東照宮をふ
くむ世界遺産に登録されてい
る日光二社一寺をさまざまな
「彩色」や「漆塗」の技術で、美し
く彩られた建物として甦らせて
います。

きわ うす おお いろつや よ えんつけきんぱく しつ
極めて薄く、しなやかで大きく、色艶の良い縁付金箔は漆
器の装飾や建造物の保存修理に使われる

縁付金箔製造

えんつけきんぱくせいぞう てすきわし かこう はくうちがみ きん はさき う
縁付金箔製造は、手漉和紙を加工した箔打紙に金を挟んで打ち延
ばし、厚さ1万分の1ミリの金箔を製造するもので、日本の伝統的
な製箔技法です。打ち上げられた箔は、革板の上で一枚ずつ裁断さ
れ、箔合紙に移して仕上げられます。会場ではこの様子を実演して
います。



実演
じつえん

えんつけきんぱく うつしの じつえん
縁付金箔うつしの実演

日本産

漆生産・精製

漆という思い浮かぶのは赤や黒に塗られたお椀ではないでしょうか。
漆は、漆の木からとれる樹液で、日本が世界に誇るすばらしい原料です。漆には抗菌力があり、
漆を塗った器にはバイ菌が付きにくくなります。また、防腐力があって、素地になっている木が腐るのを防ぎます。
漆器(漆の器)だけでなく、古い建物や仏像や文化財にも漆が使われています。

世界に誇る “漆文化” を守り 伝承 するため
に、漆の生産を確保し、日本漆芸の発展・
普及につとめる

にほん うしきぎょうかい じこく せいざん せいざん せいざん
日本の漆芸術は、自国において生産された漆によって
成り立っていましたが、近年、国内産の漆は生産が著
しく減っています。日本文化財漆協会では、漆の木を
植え、育て、樹液を精製(塗料になるよう加工すること)
するまでの技術を保存するために活動しています。



さんこうさくひん
参考作品

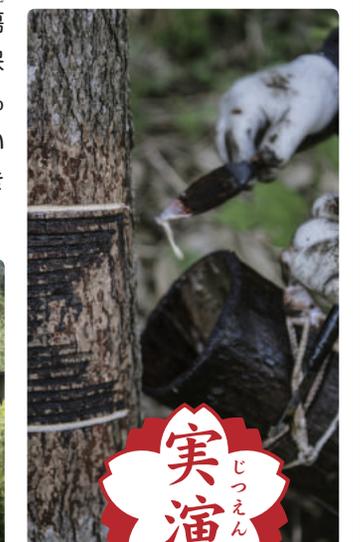


体験
たいけん

うるしぬ こざら はり
漆塗りの小皿に針のよう
な道具を使って絵を彫つ
て描き、金粉を入れる沈
金技法を体験しよう!

漆の木の幹に一文字に傷をつけ、木がその傷を癒そうとして自ら
出す樹液(生漆)をヘラで “掻きとって採取”

うるし せいざん ぎじゆつ なか せいざん うるし きみ ます
漆を生産する技術の中に、成長した漆の木の幹に傷
をつけて、漆液を採る「漆掻き」技術があります。保
存会のある岩手県の浄法寺漆は、国内生産量の70%
を誇り、接着力が強いなど、その質も大変優れている
ために、日本の文化財の修復に欠かすことのでき
ないものとして大切に守られています。



実演
じつえん

うるし か じつえん
漆掻きの実演

とうだいじ なんだいもん におうぞう
東大寺(南大門)仁王像のように8mを超える大きなものから、手のひらサイズのものまで、仏像を修理

木造彫刻修理

ひゃくねん こ ぶんかざいしゅうり れきしが
百年を超える文化財修理の歴史があり、代々の技術者に受け継がれてきた技術で、国宝や重要文化財の仏像などの保存修理や技術の研究を行っています。技術を後世に伝えるため、修理技術者の育成も行っています。



もくぞうしゃ かによらいりゅうぞう
木造釈迦如来立像
(文化庁所蔵)



よせ ぎつくり ぶつぞう くみた
寄木造の仏像を組立てみよう！
き ひょうめん あな う
木の表面に空いた穴を埋めてみよう！



せいみつ ようぐ つく つづ しょうくにん わざ てすきわし ささ
精密な用具を作り続ける職人の技が手漉和紙を支える

手漉和紙用具

製作

わしは うつくし たいじゆうせい じょうろくせい をもち ぶんかざい しゅうりにも かけないものです。また、天然素材の地球環境に優しい製品でもあり、世界中からの注目も高まっています。和紙を作るには精密で強靱な道具がなくてはなりません。和紙の用具を作る技術が、大切な日本の手漉和紙を支えているのです。



す す わざ
漉き貫の技で、しおりを
つくってみよう！

でんとうてき せんしよくこうげい か
伝統的な染織工芸に欠くことのできない、
たけ もち おさ せいさく ぎじゅつ
竹を用いた箴を製作する技術

竹箴製作



「箴」は機織りで織物を織る時の重要な用具です。日本では柔軟性に優れた真竹を原料に竹箴を製作し独自の織物が生まれまます。竹箴製作の技術は丸竹を割り薄い小さな短冊状の箴羽を作り、それを数百枚並べ、糸で編んで完成します。近年は金属製のかなざが主流になりましたが、柔軟性のある竹箴は手作りの繊維素材や手織りの世界ではなくてはならない重要な用具です。



どうく つか たけ かこう
道具を使って竹を加工してみよう！

19世紀末ヨーロッパを夢中にさせた日本の芸術“浮世絵”

浮世絵木版画

うきよ え もくほん が
ぎじゅつ
技術



ふ かくさんじゅうろっけい
富嶽三十六景
かながわおきなみうら
神奈川沖浪裏



江戸時代の印刷、木版を知っていますか？江戸時代には浮世絵がたくさん作られ、木版の技術が発達しました。浮世絵は展示すると傷んでしまうので、江戸時代と同じ図柄を同じ方法で復刻します。版木を彫り、摺る技術が大切に保存されているから、私達は江戸時代に作られたものと同じ浮世絵を見ることが出来るのです。



たしよくす
多色摺り
もくほん が
木版画うちわづくり

かいが しょせきなどを最適な材料と方法で修理する技術

装演修理技術



かけじく ぶすま びょうぶ きつしなど した
掛軸や襖、屏風、冊子等に仕立てられる絵画や書跡などの文化財は、多くが紙や絹など、とても弱い材料でできています。数百年もの時を越え、貴重な文化財が今も姿を残しているのは、人々が大切に扱ってきたということだけでなく、適切な時期に定期的な修理が行われてきたからともいえます。装演修理技術とは、これらの修理を行う技術のことを指しています。



てす わし つか
手漉き和紙を使って
まのほん つく
豆本を作ってみよう！

かいが しょせきなどを修理する材料・用具製作の維持、継承、拡充につとめる

装演修理材料・用具製作



かみ もつこう きんこう せんしよく しつこう しょうり ささ
紙、木工、金工、染織、漆工など、修理を支える伝統技術を有する会員が分野を超えて協力し、後継者の育成や原材料の確保、品質の向上など共通の諸問題の解決に取り組む、文化財修理を持続可能なものとするための活動をおこなっています。



かさ かなく たいけん
飾り金具体験

てつこうげいひん さいこうほうに ちつ けられる 日本刀。 “日本古来の製鉄技術で製造”されたその素材は玉鋼と呼ばれる。

玉鋼製造

日本刀の製作には玉鋼が不可欠です。江戸時代以来の製鉄法(たたら吹き製鋼法)によりつくられる、刃物に最も適する純度の高い鋼が玉鋼です。たたら吹きの操業は開始から3昼夜、約70時間かかります。島根県奥出雲町の日刀保たたらで年に数回操業をし、その技術を継承しています。

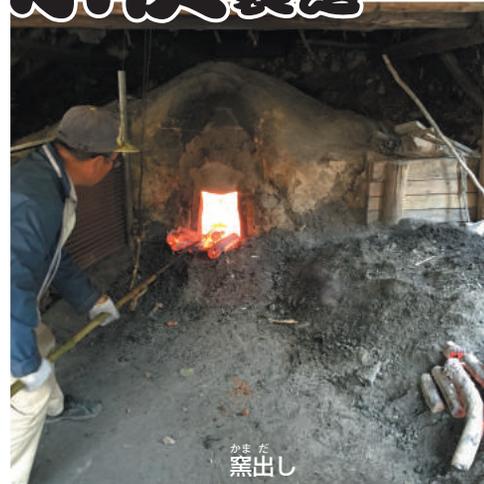


たたら吹き

岡山県の山間地域、豊かな自然に囲まれた場所を中心に、昔から脈々と続く伝統技術で“良質な木炭を製造”

木炭製造

日本刀製作や日本刀の原料となる玉鋼を生産するたたら吹き製鋼法、また漆器や金属器の研磨などに用いられる様々な木炭を製造する技術です。木炭の原材料は用途によって異なります。製造方法もそれぞれ異なるため、専門的知識と経験が要求されます。



かまだ 蒸出し

けんますみ 研磨炭



体験

炭で金属を磨いてみよう!

“伝統ある多様な技術”が組み合わされ、豪華絢爛な祭屋台などを造り出す

祭屋台等 製作修理

木工や彫刻、漆工、金工、染織等の多様な技術で構成される山・鉦・屋台などの製作や修理の技術。祭りで見られる用具や飾り物には、日本の伝統技術の粋が集められており、今日の私たちに華やかな姿を見せてくれます。



祇園祭(京都市)

“染料として重宝された植物”の成分を使用し、染め分けてきた先人の技を今に活かす

植物染料 (紅・紫根)

生産・製造



体験

木綿のハンカチを紅で染めてみよう!

紅・紫根は、古くから日本の代表的な植物染料の一つとして、伝統工芸品等の染色に欠くことのできないものです。紅花は、エジプト・小アジア地方原産で古く中国を経て日本に伝来しました。紫草はその根から美しい紫色の染料を作ることができます。天然の植物染料はその良さが見直され、注目されています。ぜひ、植物染料での染め物を体験してください。

福島県昭利村は江戸の頃から、からむし栽培技術を伝承してきた本州唯一の“上布用高品質苧麻栽培地”

からむし (苧麻) 生産・苧引き

からむしとは、イラクサ科の多年草で、苧麻とも言われる植物です。からむしの生産技術、繊維を採取する苧引きの技術は昔から変わらず伝承されています。



からむし 100匁



体験

からむしの繊維を割いて、すくろく用の駒をつくらせてみよう!

宮古上布等の織物の原材料である苧麻糸。自ら苧麻を栽培し、糸を作製するまでの一貫した工程を手がける宮古の苧麻糸製作技術者

苧麻糸手績み



苧麻糸手績みとは、苧麻の表皮から繊維を取り、手績みして(繋いで)糸を作製する技術です。沖縄の宮古諸島では糸績み技術者が苧麻の栽培から糸の製作まで一貫して行います。



体験

苧麻から繊維をとって、それを裂いて糸を績む体験をしよう!

良質な藍葉を育てる栽培の技術と、発酵状態などを見極める熟練を要する“琉球藍の製造”

琉球藍

製造

琉球藍は、本土の藍とは別種で沖縄で古くから栽培され、藍染の染料として使用されてきました。沖縄の芭蕉布など伝統染織のほとんどに琉球藍が使用されています。琉球藍の葉を発酵させ、石灰を加えて攪拌し泥藍を作る工程は熟練を要する重労働です。



体験
パンダナを藍染してみよう！

東京五輪・パラリンピックで注目の藍色、徳島の藍師が伝統を守りながら大切に作り続けている

阿波藍

製造

天然の藍染料「すくも」を作る伝統技術です。すくもの製造には長い月日を必要とし、特殊な技術と周到綿密な管理が必要です。それだけにすくもを製造する職人は尊ばれ「藍師」または「玉師」と称されました。その技術は大切に受け継がれ、美しいジャパンプルーとその風合いを届け続けています。



歌舞伎

歌舞伎は、日本を代表する伝統芸能のひとつです。約400年前に発祥し、演劇・舞踊・音楽の各要素を備えた「総合芸術」として現在に受け継がれています。歌舞伎の表現の特徴は、近代の演劇のように写実的ではなく、あくまで舞台上で「それらしく」見えることを追求してきた点です。「それらしさ」を端的に表すために、扮装・小道具・演技が誇張され、それが様式化していきました。

それまで使用していた衣裳をもとに、演じる役者に合わせて新たに再現する“衣裳製作”

歌舞伎衣裳

製作修理



体験
本物の衣裳を着てみよう！

歌舞伎の演目は約400本あると言われています。そこに登場する多種多様な役の衣裳の仕立て、着付け、修理をします。長い公演の期間中も着付けのほか、衣裳のメンテナンスを行い、歌舞伎の舞台を支えます。

幕が開いた時の期待を盛り上げ、役者の魅力を最大限に引き出す“大道具製作”

歌舞伎大道具

(背景画)製作



体験
歌舞伎の背景画に使われる絵を描こう！

歌舞伎の大道具は背景を描いた「書割」、岩や樹木を描いて切り出す「張り物」など多種多様です。「書割などの背景幕」は、平面的に描かれるのが特徴で、リアルさよりも飾ったときの絵になる美しさが大切とされます。その芝居の内容を理解し、演出を把握したうえで、独特な形式、色使いで「その場面らしい」大道具を作ります。

本物を作り得る知識に加え、役者の要望にも応えながら舞台の効果を高める“小道具製作”

歌舞伎小道具

製作



体験
仕掛小道具を操ってみよう！

小道具には、開幕時に置かれている「出道具」と、役者が持つて使用する「持ち道具」に分けられます。また、小道具を「本物」と「拵え物」に分けることもできます。「東海道四谷怪談」で使用される「戸板返し」などの「仕掛物」、舞台上で壊れてしまう皿などの「壊れ物」などは「拵え物」です。「拵え物」は舞台上では本物以上に効果的な働きをします。

くみおどりとうじやうじんぶつみぶんやくから
組踊に登場する人物の身分・役柄などをあらわす

とうぐいしやうせいさく
“道具や衣裳”の製作

組踊道具・衣裳

製作修理

おきなわでんとうげいのうくみおどりおきなわこご
沖縄の伝統芸能「組踊」は沖縄の古語のせりふ、
琉球の音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞
劇で約300年の歴史があります。小道具、大道具、
衣裳は「組踊」の上演に欠かせないものです。



くみおどりいしやうき
組踊衣裳を着てみよう！



へいあんじだいからかわらぬ技で作り出す絃が、和の音を奏でる

邦楽器原糸製造

しゃみせんことびわこきやうなどのげんがくにげん
三味線や琴、琵琶、胡弓などの弦楽器の糸（絃）に
使われる原糸（繭から繰った糸）を製造する技術で
す。特徴は「生挽き」という、熱風で繭の中のさな
ぎを絞す方法。糸のコシや光沢を生むセリンを
保ち、美しい光沢と粘りのある絃となる糸をとる
匠の技です。



くみおどりいしやうき
タッセルをつくってみよう！



体験コーナー・実演コーナー 一覧

区分	番号	団体名	体験コーナー	実演コーナー	参加方法
建造物	1	(公財)文化財建造物保存技術協会	『摺拓本、組立体験』		
	2	(一社)日本伝統建築技術保存会		(1) 木枠づくり体験	整理券配布
	3	(一社)社寺建造物美術保存技術協会	『壁掛け作りラリー (4団体合同)』	(2) 彩色体験	
	7	(一財)全国伝統建具技術保存会	※1家族あたり1セット	(3) 組子体験	
	8	全国文化財技術保存会		(4) 左官体験	
	2	(一社)日本伝統建築技術保存会	『カンナを使って箸づくり』『沖縄継手』		
	7	(一財)全国伝統建具技術保存会	『木製組子細工作り』	『木製建具の実演』	
	4	(一社)日本伝統瓦技術保存会	『瓦づくり体験』		
	5	文化財量保存会	『畳の踏み比べ、畳パズル』		
	6	文化財庭園保存技術者協議会	『庭園の手入れに用いる手箒づくり』		
	9	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会	『檜皮葺の屋根葺き体験』	『檜皮材こしらえの実演』	
	10	(一社)日本茅葺き文化協会	『茅に触れてみよう』		
工芸品技術	11	文化財石垣保存技術協議会			※展示のみ
	12	(公財)日光社寺文化財保存会			※展示のみ
	13	金沢金箔伝統技術保存会		『縁付金箔うつしの実演』	
	14	日本文化財漆協会	『沈金体験 一漆塗りの木の皿に絵を描こう』※小学5年生以上、1家族1名まで		整理券配布
	15	日本うるし掻き技術保存会		『漆掻きの実演』	
	16	(公財)美術院	『木寄模型の組み立て、虫穴詰め体験』		
	17	全国手漉和紙用具製作技術保存会	『漉き簀の技を生かしたしおりづくり』	『漉き簀を編む技の実演』	
	18	日本竹箴技術保存研究会	『竹箴作り』	『竹割りの銚(せん)引き』	
	19	浮世絵木版画彫摺技術保存協会	『多色摺り木版画うちわづくり』	『江戸木版画の彫りと摺りの実演』	
	20	(一社)国宝修理装飾師連盟	『豆本作り』		整理券配布
	21	(一社)伝統技術伝承者協会	『飾り金具体験』		整理券配布
製造技術	22	(公財)日本美術刀剣保存協会			※展示のみ
	23	伝統工芸木炭生産技術保存会	『炭で金属を磨いてみよう』		
	24	祭屋台等製作修理技術者会			※展示のみ
	25	(一財)日本民族工芸技術保存協会	『紅染め体験く木綿のハンカチ』		整理券配布
	26	昭和村からむし生産技術保存協会	『からむしの繊維を割いて、すざろく用の駒を作成』		
	27	宮古苧麻績み保存会	『苧麻績み(ブーンミ)体験』『苧麻引き(ぶーびき:繊維とり)体験』	『苧麻引き・苧麻績み・よりかけ・かしかけ実演』	
	28	琉球藍製造技術保存会	『バンドナの藍染体験』		整理券配布
	29	阿波藍製造技術保存会			※展示のみ
芸能	30	歌舞伎衣裳製作修理技術保存会	『歌舞伎衣裳体験』		
	31	歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会	『歌舞伎の背景画に使われる絵を描く体験』		
	32	歌舞伎小道具製作技術保存会	『歌舞伎の仕掛物』		
	33	組踊道具・衣裳製作修理技術保存会	『組踊衣裳体験』		
	34	木之本町邦楽器原糸製造保存会	『繭から紡いだ糸で「タッセル」を作ってみよう』		整理券配布



同時開催

組踊公演 「護佐丸敵討」

出演団体：(一社)伝統組踊保存会
11月9日(土) 16:00～17:30
沖縄県立武道館内ステージ
主催：沖縄県教育委員会



※体験内容は変更になる場合があります。体験人数には限りがあります。
同じ体験は一度しか出来ませんのでご了承ください。
※整理券は、9日(土)12時より、10日(日)10時より配布いたします。

お問合せ **TEL: 098-866-2731**
(沖縄県教育庁文化財課内)



詳しくは「日本の技体験フェア」ホームページ

<http://www.nippon-no-waza.jp>

文化庁ホームページ <http://www.bunka.go.jp/>

日本の技体験フェア